

東北海区沿岸水温予報(2002年4月)

海域	経過 (12~2月)	現況 (3~4月上旬)	見通し (4~6月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸;青森水試発表)	津軽暖流域の水温は平年並-やや高めで推移。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並-やや強めで推移。	津軽暖流の張り出しは平年並。津軽暖流域の3月の各層最高水温はやや高め。 沿岸定地水温はやや-かなり高め。	津軽暖流域の水温はやや高め。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並	日本海の現況(4月:水温かなり高め、流勢かなり強め)や親潮の動向、沿岸定地水温の現況等から判断した。	特になし。
三陸中部 (岩手県沿岸;岩手水セ発表)	12月は県中部~北部の沿岸沿いに親潮系冷水が南下。沖合域では北上暖水の張り出しが強勢であった。1月、2月は県北部沖合は平年より高めであったが、県南部沖合は低めであった。	3月までは暖水塊、冷水域それぞれの影響により県北部沖合は平年よりも高め、中~南部沖合はやや低めで推移したが、4月には冷水域が縮小し、代わって、沖合から暖水が波及したことにより、全体的に平年並み~やや高めとなった。	沿岸10海里以内は平年よりやや高め、10~70海里は暖水塊の影響により高めに推移する。	親潮第一分枝、第二分枝とも張り出しが北偏傾向であること、県南部沖合の冷水域が縮小しつつあること、沖合では、三陸沖暖水塊の影響が予測されることから判断した。	イサダ漁では漁期中、県下満遍なく安定して漁場が形成された。
三陸南部 (宮城県沿岸;宮城水セ発表)	12月は黒潮系暖水の北上・接岸により県沿岸海域は広く表面で15以上、100m深で14以上の水で覆われ、表面では平年より3~5高めとなった。1月に入ると接岸していた暖水の勢力が弱まり、平年・100m深とも平年より2~4低めとなったが、仙台湾周辺では暖水が残り2~4高めとなった。2月には更に暖水の勢力が弱まるとともに親潮系冷水が波及し、表面・100m深とも平年より2~3低い水で広く覆われた。	3月は北から波及する親潮系冷水が広く県沿岸を占め、中部沖合海域を中心に平年より2~4低めとなったが、南部沖合海域は常磐沖暖水塊の北西端にあたり平年より6高い海域が見られた。4月に入ると黒潮系暖水、親潮系冷水とも勢力が弱まり、概ね平年並~3高めとなった。	表面・100m深とも平年並~平年より高めで推移する。	平年では親潮第1分枝が北退する時期となり、冷水の影響を受ける要素が減少する。また現在の位置に停滞すると考えられる常磐沖暖水塊とこれに伴う暖水の影響を受けて、平年より高め傾向で推移する要素が大きい。	特になし。
常磐北部 (福島県沿岸;福島水試発表)	12月:黒潮系暖水の勢力が強く、表層~下層で高め~極めて高めで、距岸50海里付近では平年より5~8高くなった。1月:県南部沿岸に暖水舌が分布し平年よりやや高め~高め、県中北部沖合に親潮系冷水の南下がみられ、やや低め~低めとなった。2月:距岸50海里以内に親潮系冷水が南下し、全域で降温が進んだ。50海里以東は沖合からの暖水波及により平年並み~やや高め。	3月:沖合からの暖水波及が強まり、平年より高めとなった。親潮系冷水はごく沿岸を南下するが弱め。4月:50海里以東は依然、県南部を中心に高め基調で推移しているが、30海里以内の沿岸部では親潮系冷水の南下が強まり、平年並み~やや低めとなった。	距岸30海里以内では、親潮系冷水の一時的な南下がみられるものの概ね平年並み~やや高めで推移。距岸30海里以東ではやや高めで推移する。	4月海洋観測では、親潮系冷水の南下によりやや低めとなったが、宮城県海域では高め基調となっており(宮城水セ4月海洋観測)、親潮系冷水の南下は弱いと思われる。また、常磐沖からの暖水波及が依然として強く、今後も継続すると判断した。	1月~2月上旬:まき網によるサバ、アジ(豆アジ)の好漁。イワシ類(セグロ、マイワシ)の低調。1~4月上旬現在まで、オキアミ水揚げがみられない。
常磐南部~鹿島灘 (茨城県沿岸;茨城水試発表)	12月:黒潮は常磐海域に接岸しており、黒潮系暖水が北から波及していた。1月:黒潮が犬吠埼沖に存在しており、沖合から沿岸域に黒潮系暖水が波及していた。12月~1月は暖水の波及により水温は「平年並~やや高め」であった。2月:黒潮が犬吠埼沖に存在し、沿岸域に暖水舌が形成されていた。また、常磐南部沖に親潮系冷水が差し込んでいた。水温は親潮系冷水の先端域で「極めて低め」、その他の海域では「平年並~高め」であった。	3月:常磐沿岸域に親潮系冷水が南下している。黒潮は犬吠埼より南を流れ、沖合域に黒潮系暖水が波及し、中旬以降強まっている。4月:黒潮は犬吠埼沖を東に流れ、黒潮系暖水が常磐沖合海域から沿岸域に波及している。常磐南部沿岸域に親潮系冷水が差し込んでいる。	全般的に「平年並~やや高め」で推移するが、常磐南部沿岸域では親潮系冷水の影響を受けて一時的に「平年並~やや低め」となる。	房総半島沖での黒潮の離接岸変動に伴って鹿島灘~常磐南部海域には黒潮系暖水が断続的に波及すると考えられる。また、三陸近海には冷水域が存在するため、黒潮が離岸した際に、常磐南部沿岸域では一時的に冷水の影響があると考えられる。	常磐沖でのサンマ漁場形成が一時的であった(10月中旬)。マダコが不漁であった(12~1月)。ゴボウセグロの来遊量が少なかった。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	4.0~+5.9	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	+2.5~+3.9
やや高い(20%)	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	1.5~+3.9	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	+1.0~+2.4
平年並み(40%)	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	1.4~-1.4	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	+0.9~-0.9
やや低い(20%)	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	1.5~-3.9	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	-1.0~-2.4
低い(7.5%)	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	4.0~-5.9	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	-2.5~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~